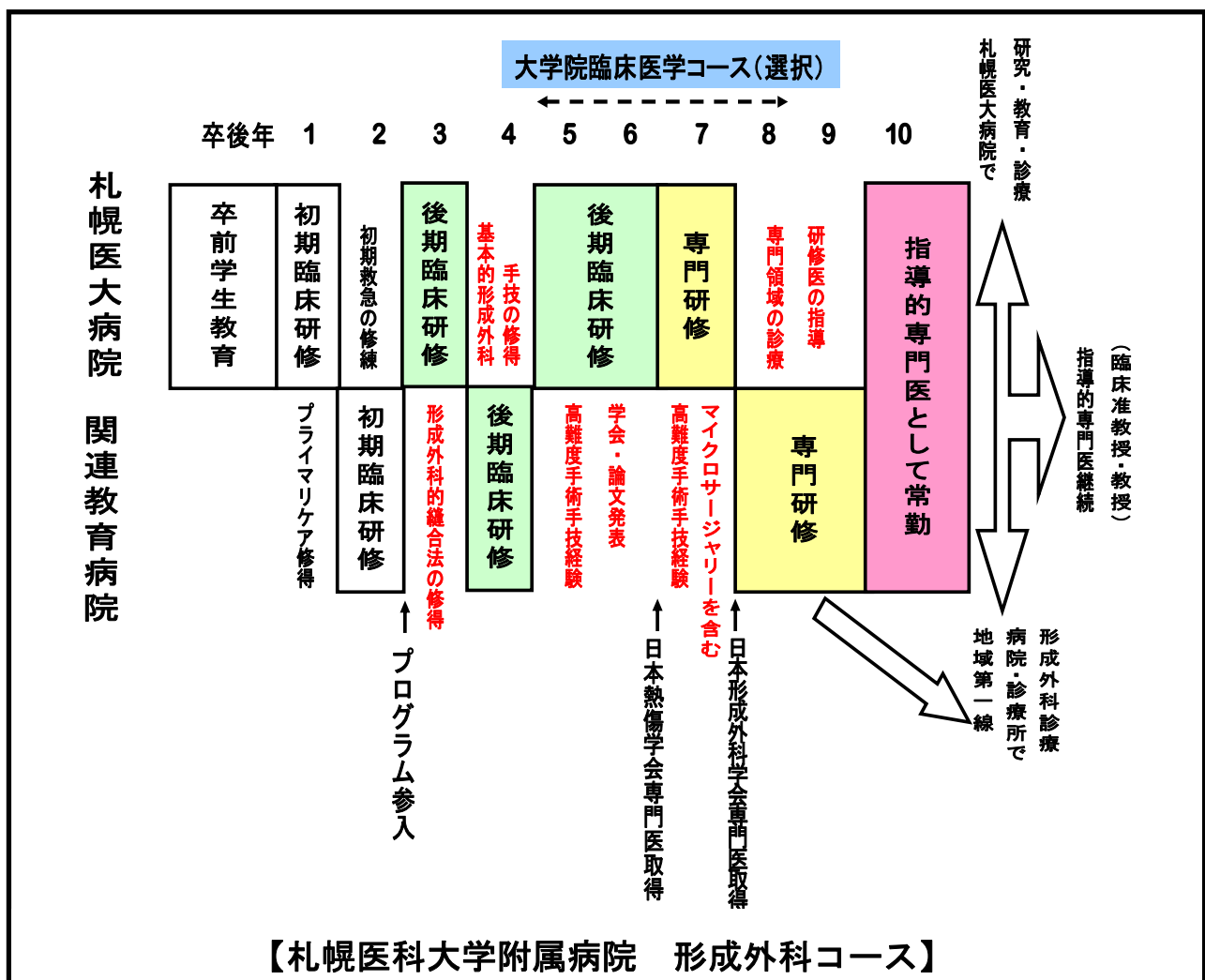


形成外科

形成外科コース

(1) コースの全体像

①初期研修は1年を札幌大病院、他の1年を関連教育病院で行うことが望ましい。選択科目においては、形成外科に関与する外科系各科の選択を推奨。②3、4年目は、1年間は札幌医科大学附属病院にて基本手技の取得を行う。他の1年は、関連教育施設にて外傷等への対応等一般病院において要する手技を獲得。③5、6年目は札幌医科大学附属病院にて専門的医療を習得。すなわち、1) 顔面外傷、熱傷 2) 体表先天異常 3) 腫瘍、難治性潰瘍 4) マイクロサージャリーを含む他科再建を、各半年以上各グループのオーベンの助手として、又は基本的な疾患においては主治医、執刀医としてトレーニングを行う。6年目は、日本熱傷学会専門医の取得を目標とする。④7年目は日本形成外科学会専門医の取得を目指す。⑤8年目以降は、大学で引き続き診療に当たる、関連病院に出向、大学院進学など行い、指導医として質の高い能力や技術養成に努める。なお、一部は他コースの一部を選択できる。



(2) コースの概要

コース名：札幌医科大学附属病院 形成外科コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
札幌医科大学附属病院	形成外科	外傷 腫瘍 体表先天異常 再建外科	5	顔面外傷、熱傷、腫瘍、体表先天異常に対する形成外科診療に加え、マイクロサージャリーを伴う高度再建技術を含め研修。他コースの研修医も研修可能。	3	4～5年
市立室蘭総合病院	形成外科	形成外科一般	1	顔面外傷、熱傷、腫瘍、体表先天異常に対する形成外科診療の研修。他コースの研修医も研修可能。	1	1～2年
砂川市立病院	形成外科	形成外科一般 難治性潰瘍	1	顔面外傷、熱傷、腫瘍、体表先天異常に対する形成外科診療、および難治性皮膚潰瘍の研修。他コースの研修医も研修可能。	1	1～2年
函館五稜郭病院	形成外科	形成外科一般 レーザー治療	1	顔面外傷、熱傷、腫瘍、体表先天異常に対する形成外科診療、およびレーザー治療の研修。他コースの研修医も研修可能。	1	1～2年
旭川赤十字病院	形成外科	形成外科一般 救急外来	3	顔面外傷、熱傷、腫瘍、体表先天異常に対する形成外科診療、および救急医療の研修。他コースの研修医も研修可能。	1	1～2年
弘前大学医学部附属病院	形成外科	形成外科一般 悪性腫瘍	3	顔面外傷、熱傷、腫瘍、体表先天異常に対する形成外科診療、再建技術、腫瘍の取り扱いについての研修。他コースの研修医も研修可能。	2	1～2年

(3) コースの実績

2007年札幌医科大学附属病院形成外科における全身麻酔手術件数約600件。うち、熱傷・顔面外傷150件、小耳症、口唇裂等の先天異常150件、皮膚・軟部組織腫瘍、潰瘍150件、マイクロサージャリー等による他科再建手術130件と、まんべんなく高度医療の経験が得られる。また、関連病院の手術を合わせると2,500件あり、熱傷学会専門医、形成外科学会専門医の取得に十分な実績を有する。

(4) コースの指導状況

札幌医科大学附属病院形成外科では熱傷学会専門医3名、形成外科学会専門医5名がいる。小耳症・口唇裂、乳房再建、熱傷、難治性潰瘍の各分野の専門医師を配備している。また関連施設は、専門医取得のための学会指定の関連施設として、大学との密接な連携で体制が整えられており、各専門医も常在している。3年前から弘前大学との診療・研究連携している（なお、香川大学、近畿大学との交流も行っており、希望があればそちらでの研修も可能）。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本形成外科学会
資格名	日本形成外科学会専門医
資格要件	<p><専門医申請資格></p> <ol style="list-style-type: none">1. 6年以上日本国医師免許証を有するもの。2. 臨床研修2年の後、資格を有する研修施設において通算4年以上の形成外科研修を行うこと。4年以上ひきつづいて日本形成外科学会正会員であること。3. 第19条に定める研修を終了し、第20条に定める記録を有するもの。4. 日本形成外科学会主催の講習会（学術研修会あるいはインストラクショナル・コース）受講証明書を4枚以上有すること。 <p><研修期間></p> <p>形成外科研修は4年以上とする。但し義務化された臨床研修期間中の形成外科研修は含まない。この規定は第98回日本国医師国家試験合格者以降の者に適用する。それに該当しない者については、これと同等以上の形成外科研修を修了したと専門医認定委員会が認定したものは可とする。</p> <p>ただし、大学院生、研究生などの研修期間に関しては、週3日以上形成外科の臨床研修に携わったものはフルカウントできる。なお、3日未満1日以上臨床研修を行ったものは、その年限の半分をカウントするものとする。研修の実状は当該科の所属長、または施設長が責任をもって認定する。</p> <p><研修施設></p> <p>形成外科研修については、学会が認定した研修施設、あるいはこれと同等以上と認めた国外の施設とする。その他の臨床研修については、厚生労働省の定める臨床研修指定病院、または、これに準ずる病院とする。</p> <p><研修記録></p> <ol style="list-style-type: none">(1) 申請者の受け持った患者で直接手術に関与した60症例の症例一覧表(2) 申請者が術者として手術を行った10症例についての所定の病歴要約(3) 10症例、60症例は、認定施設あるいは教育関連施設で行った症例に限る。 <p>前項(1)、(2)の症例にはそれぞれ以下の11項目中8項目以上を含まねばならない。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 新鮮熱傷（全身管理を要する非手術例を含む）(2) 顔面骨骨折および顔面軟部組織損傷(3) 唇裂・口蓋裂(4) 手、足の先天異常，外傷(5) その他の先天異常(6) 母、血管腫、良性腫瘍(7) 悪性腫瘍およびそれに関連する再建(8) 瘢痕、瘢痕拘縮、ケロイド(9) 褥瘡、難治性潰瘍(10) 美容外科

	<p>(11) その他</p> <p>ただし、同一症例の同一部位は、1項目としてのみ適用される。同一症例の同一部位は、一人の研修者の記録としてのみ適用される。同一症例であっても、疾患、部位が異なる場合は、この限りではない。</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>当施設は日本形成外科学会の認定した研修施設であり、形成外科全領域にわたる十分な症例数を有する。学会での発表、学会誌等への投稿に加え、学会の評議員、各種委員としても活動をしている。</p>	

学会等名	日本熱傷学会
資格名	日本熱傷学会専門医
資格要件	<p><研修期間></p> <p>学会が認定した熱傷専門医認定研修施設で専門医の指導のもとで行う1年以上の研修を含めて以下の学会の専門医・認定医認定施設あるいは、本委員会が研修にふさわしいと認めた施設での研修が5年以上あること。</p> <p>日本救急医学会、日本形成外科学会、日本外科学会、日本皮膚科学会</p> <p><研修内容></p> <p>申請者は研修期間中に下記の15項目について各項目ごとに最低3症例の経験を必要とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 熱傷深度の判定と範囲の算定 (2) 初期輸液法 (3) 熱傷患者の呼吸管理 (4) 熱傷患者の栄養管理 (5) 熱傷患者の感染管理 (6) 気道熱傷の診断と治療 (7) 減張切開術 (8) 壊死組織切除 (9) 熱傷創に対する分層植皮術 (10) 分層植皮片の採取と採皮創の治療 (11) 熱傷創に対する局所軟膏療法 (12) 熱傷後瘢痕拘縮に対する予防療法 (13) 植皮による瘢痕拘縮形成術 (14) 皮弁による瘢痕拘縮形成術 (15) 熱傷患者のリハビリテーション <p>ただし、日本熱傷学会講習会に参加した者は、講習会参加1回につき6症例分の経験にすることができる。また、スキンバンク摘出・保存講習会に参加したものは上記(8)から(10)の項目に限り講習会参加1回につき6症例分の経験にすることができる。なお、両講習会参加による振替は、3回までとする。</p> <p>申請者は研修期間中に下記の10項目のうち最低5項目に主治医(診療を主として担当するもの)として診療に従事した経験を必要とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 広範囲熱傷 (2) 小児熱傷 (3) 高齢者熱傷 (4) 気道熱傷(損傷)

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">(5) 手・足の熱傷(6) 顔面熱傷(7) 外陰部・会陰部熱傷(8) 熱傷後肥厚性瘢痕または瘢痕拘縮(9) 化学熱傷（損傷）(10) 電撃傷 |
|--|---|

学会の連携等の概要

当施設は日本熱傷学会の認定した研修施設であり、熱傷の初期管理から後遺症の治療に至るまで十分な症例数を有する。学会での発表、学会誌等への投稿に加え、学会の評議員としても活動をしている。